学生・保護者のみなさま

信州大学総合健康安全センター

侵襲性髄膜炎菌感染症と髄膜炎菌ワクチンについての情報提供

侵襲性髄膜炎菌感染症は髄膜炎菌を原因とし、発症すると 24-48 時間以内に命を失うこともある重大な感染症です。感染リスクとして、学校の寮などでの集団生活、国際イベントの参加や流行国への渡航などが挙げられています。侵襲性髄膜炎菌感染症の予防には髄膜炎菌ワクチンが有効です。接種にあたっては任意となりますが、入寮時、留学時などではリスクが高まりますので、下記情報等をご参考いただき接種をご検討ください。なお、ワクチンは医療機関にてすぐに接種できない場合があるので、希望する場合には事前に「髄膜炎菌ワクチンを接種したい」旨を医療機関にご連絡の上、ご相談ください。

記

１．侵襲性髄膜炎菌感染症

国内での発症数は年間 20-40 件ですが、思春期・青年期の発症も多く報告され、学生寮等における集団感染や死亡例が発生しています。初期症状は風邪に似ていることから初期段階での治療を受けにくいにも関わらず、進行が早い上に死亡率が高い疾患です。また、適正な治療を受け回復した場合にも 10-20%の後遺症が報告されています。

２．感染経路とリスク

髄膜炎菌はヒトの鼻やのどの粘膜に存在し、くしゃみやせきなどの飛沫、飲み物や食器類の共有、キスなどによって感染します。学生寮や運動部の合宿などの集団生活や、海外から原因菌が持ち込まれる可能性のある国際イベントへの参加で感染リスクが高まります。また、留学に際しては現地での共同生活でも同様にリスクがあるのに加え、髄膜炎菌ワクチンの接種証明の提出を求められる場合もあります。

３．髄膜炎菌ワクチン

髄膜炎菌ワクチンは全額自己負担する任意接種です。一回接種ですが 5 年で効果が失われるため、感染リスクが続く場合には 5 年ごとの接種が必要となります。日本で承認されているワクチンは 4 価髄膜炎菌ワクチンで、世界 55 か国で承認を受けています。世界各国での接種実績から、特に重篤な副作用は報告されておらず、局所反応（接種部位の発赤や腫脹）など他のワクチン接種と同程度です。